

座談会

指導員の連携・協力・ 学びあいを考える

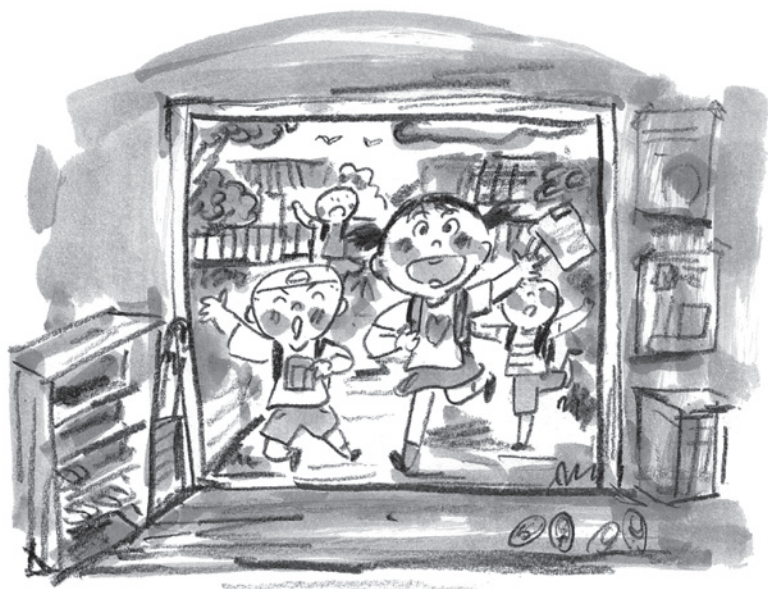
日々の記録をもとに

子どもの様子を伝えあおう

編集部 今回の座談会では、「学童保育における指導員の連携・協力・学びあいの必要性」と、「そのなかで大切にしたこと」について、話しあっていただければと息をいします。

最初に、藤原さんと清水さんがお勤めの学童保育での、子どもの大まかな動きと指導員の関わり、それぞれの指導員が関わったことや出来事をどのように情報共有しているかなどの紹介をお願いします。

藤原 まず、子どもたちが「ただいま」と帰ってきたら連絡帳を出してもらい、担当の指導員が、そこに書かれた帰宅時間や帰宅方法をホワイトボードに書き込みます。「連絡帳担当」は保育中も指導員間の情報伝達の仲介



藤原さゆり 指導員・指導員歴34年
清水恭史 指導員・指導員歴29年
熊野哲也 元指導員・指導員歴32年



役を担っていて、それぞれの指導員は見聞きした子どもの様子を「連絡帳担当」に伝え、それを連絡帳に記してもらいます。

清水　私の勤める学童保育でも連絡帳を活用しています。常勤指導員二名で内容を確認したら、出欠の状況や帰る時間などを出欠簿に書き込み、ホワイトボードにも「〇〇ちゃん、何時」と声を出しながら書き込みます。

連絡帳を書くのは常勤指導員ですが、担当は事前に決めていません。子どもとの関わりから、その場で分担をしたり、自分が関わった出来事をそれぞれが書いていたりしています。非常勤指導員から子どもの様子を伝えてもらって書くこともあります。

藤原　私の職場でも基本的に「連絡帳担当」は常勤指導員が担っていて、非常勤指導員から情報をいただいで書くという形です。「この件については、私が書くね」と関わった指導員が引き取ることもあります。また、「こう書くよ」「こう書いたよ」と、内容の方向性と結果の確認をていねいに行っています。「書いた人だけの責任にせず」に、指導員全体として、見たこと・関わったことをていねいに書ききる」という視点は、担当を設けつつも大切にしたいなと思っています。

清水　子どもたちは施設内のさまざまな部屋で過ごしていますから、保育中にケガが発生したり、子どもの体調が悪くなったりしたときには、常勤指導員のどちらかに情報を集約することになっています。そのうえで、常勤指導員二名で情報を共有し、対応を相談します。必要に応じて、非常勤指導員も加わってもらいます。状況を正確に理解すること、そして複数人で判断することを心がけています。

藤原　保育中は、室内・屋外と、子どもたちの活動の場所が多岐にわたりますし、ケガが発生した場合には指導員が一人の子どもにかかりきりになることもあるので、ほかの指導員が全体を見られるようにするためにも、指導員同士がお互いにそれぞれの立ち位置を確認しながら保育にあたることは大切ですね。私の職場でも、『わかっているだろう』ではなく、しっかりと伝えてから行動すること』を指導員の間で確認しています。

編集部　退勤時はどうですか？

藤原　そうですね……。保育中にこまめに伝えあっているから、退勤時にゼロの状態から、「今日の出来事を報告します」ということはほとんどないかなと思います。一日保育で非常勤指導員がお昼過ぎに退勤するときなど

